

氏名 今 井 茂 郎

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2548 号

学位授与の日付 平成 5 年 3 月 28 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 リウマチ性僧帽弁膜症に合併する三尖弁閉鎖不全症における右室
心筋微細構造の研究

論文審査委員 教授 原岡 昭一 教授 古元 嘉昭 教授 菅 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

僧帽弁膜症手術症例42例（リウマチ性29例，非リウマチ性13例）を対象とし，これに合併する三尖弁閉鎖不全症（TR）の病態を右室心筋微細構造の面より検討した。

右室心筋の光顕像より右室心筋組織の線維化率（%Fib.）を測定し，電顕像より右室心筋細胞の変性度をスコア化（EM-score）した。以下の様な結果を得た。

リウマチ群と非リウマチ群を比較検討したところ，%Fib.はリウマチ群の方が有意に高値であり，右室心筋の線維化にリウマチ性変化が関与していることが示唆された。またリウマチ群において，術前TRの重症な症例ほど%Fib.およびEM-scoreは高値であった。さらにリウマチ群において術後早期と術後遠隔期のTRの重症度を比較し，TR悪化群とTR改善・不変群に分けて検討したところ，%Fib.，EM-scoreともにTR悪化群がTR改善・不変群に比して有意に高値であった。

以上より，リウマチ性僧帽弁膜症におけるTRは，圧負荷による二次的原因だけでなく，右室心筋のリウマチ性変化および圧・容量負荷に起因する右室心筋の微細構造の変化にも原因があることが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は僧帽弁膜症の三尖弁閉鎖不全について臨床的に検討したものであるが，とくにリウマチ性僧帽弁膜症の三尖弁閉鎖不全は右室心筋の変化によるものであることを明らかにしたもので，価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。